

奈良原一高

Ikko Narahara

- 1931年 福岡県に生まれる
1954年 中央大学法学部卒業
1959年 早稲田大学大学院美術史専攻修士課程修了
1959年 東松照明、細江英公、川田喜久治、佐藤明、丹野章らと「VIVO」を結成
1962-65年 パリ在住
1970-74年 ニューヨーク在住
1974年～ 東京を中心に活動
1999-2005年 九州産業大学大学院教授

受賞および受章

- 2006年 旭日小綬章
2005年 日本写真協会賞功労賞
1996年 紫綬褒章
1987年 第3回東川賞国内作家賞
1986年 日本写真協会賞年度賞
1968年 芸術選奨文部大臣賞
1968年 第9回毎日芸術賞
1967年 日本写真批評家協会作家賞
1959年 第2回ヴェネツィア国際写真ビエンナーレ銅賞
1958年 日本写真批評家協会新人賞

個展

- 2018年 「《人間の土地》とグループ「実在者」」島根県立美術館（松江 島根）
「スペイン」高浜市やきものの里かわら美術館（愛知）
「肖像の風景」島根県立美術館（松江 島根）
- 2017年 「華麗なる闇 漆黒の時間(とき)」キヤノンギャラリーS（東京）
「奈良原一高の愛したヴェネツィア」島根県立美術館（松江 島根）
- 2016年 「ヴェネツィアの夜」タカ・イシイギャラリー フォトグラフィー/フィルム（東京）
「消滅した時間」FUJIFILM SQUARE 写真歴史博物館（東京）
- 2015年 「Japanesque 禅」フォト・ギャラリー・インターナショナル（以下 P.G.I.）（東京）
「静止した時間」タカ・イシイギャラリー フォトグラフィー/フィルム（東京）
- 2014年 「奈良原一高 王国」東京国立近代美術館（東京）
「奈良原一高 スペイン・偉大なる午後」島根県立美術館（松江 島根）
- 2013年 「手のなかの空」長崎県美術館（長崎）
- 2012年 「奈良原一高 タカ・イシイギャラリー フォトグラフィー/フィルム（東京）



- 2010 年 「手のなかの空」島根県立美術館（松江）
- 2005 年 「円形への視野への散歩」九州産業大学美術館（福岡）
「円」(En – Circular Vision) 丹波市立植野記念美術館（兵庫）
- 2004 年 「Ikko Narahara」フォトフォーラム（ビエンヌ スイス）
「時空の鏡：シンクロニシティ」東京都写真美術館（東京）
「円」ニコンサロン（東京および大阪）
- 2003 年 「天」(HEAVEN) P.G.I.（東京）
「天」(HEAVEN) 京都造形芸術大学 Gallery Raku（京都）
- 2002 年 「Ikko Narahara」ヨーロッパ写真美術館（パリ）
「王国」島根県立美術館（松江）
- 2000 年 「人間の土地」島根県立美術館（松江）
「Zen」ピッコロ・テアトロ・ストレーレル（ミラノ イタリア）
- 1999 年 「円」バーソウ・フォト・ギャラリー（東京）
- 1998 年 「消滅した時間 1970–1974」P.G.I.（東京）、ギャラリー807（北海道）
- 1997 年 「消滅した時間」台中撮影藝廊（台中 台湾）
「ポケット東京 1992–1997」コニカプラザ（東京）
- 1995 年 「ポケット東京」、「東京スカイライン」コニカプラザ（東京）
「Tokyo, the '50s」モール（東京）
- 1994 年 「ブルーヨコハマ」パストレイズ・フォト・ギャラリー（横浜）
「1万5千回の夜の間に」プラザ・ギャラリー（東京）
- 1991 年 「プロードウェイ」、「復活の都市・1990」P.G.I.（東京）
- 1989 年 「天頂の街ベルガモ」ウナックサロン（東京）
- 1987 年 「人間の土地 1954–1957」P.G.I.（東京）、ピクチャー・フォト・スペース（大阪）
「無国籍地」ウナックサロン（東京）
「星の記憶」パルコ・ギャラリー（東京）
「魅惑のヴェネツィア」プランタン銀座（東京）、大丸ミュージアム（大阪）
- 1986 年 「ディジタル・シティー」ニコンサロン（東京）
- 1985 年 「肖像の風景」有楽町朝日ギャラリー（東京）
「光と闇 二つの世界」ウォーカーヒル美術館（ソウル 韓国）
- 1984 年 「アムステルダム・フォト '84」（オランダ）
- 1983 年 「夜光都市・ヴェネツィア」ニコンサロン（東京）
「空気遠近法」西武コンテンポラリー・アート・ギャラリー（東京）
- 1981 年 「Ikko Narahara」フォトグラファーズ・ギャラリー（ロンドン）
- 1980 年 「朝倉響子彫塑集 光と波と」丸善画廊（東京）
「ヴェネツィアの光」ニコンサロン（東京）
「Ikko Narahara」シャルルロワ国際写真トリエンナーレ（ベルギー）
- 1979 年 「光の回廊 サン・マルコ」和光ホール（東京）
「ジャパネスク—近くで遙かな旅」ニコンサロン、ウナックサロン、飯田画廊別館（東京）
- 1977 年 「プロードウェイ 1973–1974」飯田画廊別館（東京）



- 1975年 「IKKO」ライト・ギャラリー（ニューヨーク）
「静止した時間」写大ギャラリー（東京）
- 1974年 「IKKO'S AMERICA」ニコンサロン（東京）
- 1973年 「IKKO」ジョージ・イーストマン・ハウス国際写真美術館（ロチェスター アメリカ）
「IKKO」ナイクルー・ギャラリー（ニューヨーク）
- 1972年 「生きる歓び」渋谷西武（東京）
- 1970年 「スペイン 偉大なる午後」池袋西武（東京）
- 1965年 「スペイン 偉大なる午後」富士フォトサロンおよび壹番館画廊（東京）
- 1960年 「ブルー ヨコハマ」月光ギャラリー（東京）
「カオスの地」富士フォトサロン（東京）
- 1959年 「城」丸ノ内ギャラリー（東京）
- 1958年 「王国」富士フォトサロン（東京）
- 1956年 「人間の土地」松島ギャラリー（東京）

グループ展

- 2018年 「建築×写真 ここのみに在る光」東京都写真美術館（東京）
「清里フォトアートミュージアム収蔵作品展 原点を、永遠に。-2018-」
東京都写真美術館（東京）
- 2016年 「Black Sun/Red Moon: Pictures from Japan」Ratio 3（サンフランシスコ アメリカ）
- 2013年 「ジャパニーズ・フォトグラファー 戦後-現在」タカ・イシイギャラリー（東京）
- 2009年 「日本の自画像 写真が描く戦後 1945-1964」世田谷美術館（東京）
- 2007年 「昭和の風景」東京都写真美術館（東京）
「澁澤龍彦幻想美術館」埼玉県立近代美術館（さいたま）
「VIVO」写大ギャラリー（東京）
「山口県立美術館コレクション写真展<写真にみる戦後日本>」砺波市美術館（富山）
- 2006年 「昭和の記憶」群馬県立館林美術館（群馬）
- 2005年 「写真／長崎」長崎県美術館（長崎）
- 2004年 「In the Center of Things」アリゾナ大学・センター・フォー・クリエイティブ・フォトグラフィー
(ツーソン アメリカ)
- 2003年 「日本写真史展」ヒューストン美術館（テキサス アメリカ）
「日本の写真 1945-1975」シュリー館（パリ フランス）
「VIVO」展 島根県立美術館（松江）
- 2002年 「Peace Art」ニューヨーク、東京、他
「馬へのオマージュ」東京都写真美術館（東京）
- 2002年 「写真と20世紀の風景」東京国立近代美術館（東京）
- 2001年 「Viva! ITALIA」東京都写真美術館（東京）
「ギリシャ・フォトフェスタ The Spirit of Religion」スコペロス写真センター（ギリシャ）
- 2000年 「P.G.I.ギャラリー・アーティスト展」P.G.I.（東京）



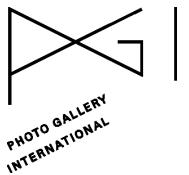
- 1999年 「写真表現の軌跡/第2部 日本の写真：1950年代から現代まで」東京都写真美術館（東京）
「写真再発見 東京国立近代美術館の写真コレクションより」東京国立近代美術館フィルムセンター（東京）
- 1998年 「戦後日本のリアリズム 1945-1960」名古屋市美術館（愛知）
- 1996年 「1953年 ライトアップ 新しい戦後美術像が見えてきた」目黒区美術館（東京）
- 1995年 「写真都市 TOKYO」東京都写真美術館（東京）
「日本現代写真史展」の総合展示「記録・創造する眼」三越本店（東京）
「戦後文化の軌跡 1945-1995」目黒区美術館（東京）
「澁澤龍彦画廊展」日動画廊（東京）
「Hyogo Aid '95 by Art: 23 Artists」展 日本各地を巡回
- 1994年 「Reflection of Venice」プリンストン大学美術館（ニュージャージー アメリカ）
「Quest For the Moon」ヒューストン美術館（テキサス）
- 1993年 「時代をひらいた写真家たち 1960-70年代」東京都写真美術館（東京）
- 1991年 「54 Master Photographers of 1960-1979」国際写真センター（ニューヨーク）
「日本写真的転換 1960年代の表現」東京都写真美術館（東京）
「写真の 1955-65 自立した映像群」山口県立美術館（山口）
「Venice」ニューチャーチ美術館（アムステルダム オランダ）
- 1990年 「東京-TOKYO」有楽町西武アートフォーラム（東京）
「International View Point」ヒューストン美術館（テキサス アメリカ）
- 1988年 「日本の写真家 8人展」P.G.I.
- 1987年 「写真 1945-1985」ハンブルク工芸装飾美術館（ドイツ）
- 1986年 「1910-1970 Japon des Avant-gardes（前衛芸術の日本 1910-1970）」
ポンピドゥー・センター（パリ）
「Houston and the Rodeo」ヒューストン・フォト・フェスト・ビエンナーレ（テキサス）
- 1985年 「パリ・ニューヨーク・東京」つくば写真美術館 '85（茨城）
- 1982年 「20世紀の写真・ニューヨーク近代美術館コレクション展」西武美術館（東京）
「国立国際美術館所蔵展」国立国際美術館（大阪）
- 1981年 「Das Imaginäre Photo-Museum」フォトキナ（ケルン ドイツ）
- 1979年 「Japan: A Self-Portrait」国際写真センター（ニューヨーク）
「Fleeting Gestures: Dance Photographs」国際写真センター（ニューヨーク）
「Fotografia Giapponese Dal 1848 Ad Oggi」ボローニヤ近代美術館（イタリア）他
- 1978年 「VIVO」サンタバーバラ美術館（カリфорニア アメリカ）
「アルル国際写真フェスティバル」に招待出品（アルル フランス）
- 1977年 「Locations in Time」ジョージ・イーストマン・ハウス国際写真美術館
(ロチェスター アメリカ)
- 1976年 「Neue Fotografie aus Japan」グラーツ市立美術館（オーストリア）
- 1974年 「New Japanese Photography」ニューヨーク近代美術館（アメリカ）
「世界の10人展」マックマスター・ギャラリー（オンタリオ カナダ）
- 1966年 「現代写真の10人」東京国立近代美術館（東京）



- 1962年 「NON」 松屋（東京）
1960年 「現代写真 1959」 東京国立近代美術館（東京）
1959年 「第2回ヴェネツィア国際写真ビエンナーレ」（ヴェネツィア イタリア）
1958年 「日本主観主義写真展」 富士フォトサロン（東京）
1957年 「10人の眼」 小西六フォトギャラリー（東京） 58、59年にも出品
1956年 「第1回国際主観主義写真展」に招待出品、日本橋高島屋（東京）

出版物

- 「太陽の肖像：文集」白水社（2016年）
「奈良原一高 王国」東京国立近代美術館（2014年）
「手のなかの空」島根県立美術館（2010年）
「無国籍地 Stateless Land – 1954」クレオ（2004年）
「奈良原一高写真集–時空の鏡–」新潮社（2004年）
「円 En – Circular Vision」クレオ（2004年）
「Ikko Narahara」ヨーロッパ写真美術館（2002年）
「天 HEAVEN」クレオ（2002年）
「奈良原一高」<日本の写真家31>岩波書店（1997年）
「ポケット東京」クレオ（1997年）
「Tokyo, the '50s」モール（1996年）
「砂の上の黒い太陽 –林英美子編」人文書院（1996年）
「消滅した時間 1970–1974」<再編集版>クレオ（1995年）
「1万5千回の夜の間に」モール（1994年）
「空 Ku」リブロポート（1994年）
「Japanesque」フェデリコ・モッタ社、ミラノ（1994年）
「デュシャン大ガラスと瀧口修造シガー・ボックス」みすず書房（1992年）
「プロードウェイ」クレオ（1991年）
「人間の土地」リブロポート（1987年）
「ヴェネツィアの光」流行通信（1987年）
「星の記憶」パルコ出版（1987年）
「肖像の風景」新潮社（1985年）
「ヴェネツィアの夜」岩波書店（1985年）
「空気遠近法」現代版画工房<詩・田村隆一、写真・奈良原一高>（1983年）
「昭和写真・全仕事 9 奈良原一高」朝日新聞社（1983年）
「光の回廊 サン・マルコ」ウナックトウキョウ（1981年）
「プラネタリー・ブックス 18 写真の時間」工作舎 松岡正剛との対談集（1981年）
「朝倉響子 彫塑集 光りと波と」パルコ出版（1980年）
「日本の美 現代日本写真全集 第9巻 近くて遙かな旅」集英社（1979年）
「ソノラマ写真選書 9 王国 沈黙の園・壁の中」朝日ソノラマ（1978年）
「Seven from Ikko」<ポートフォリオ>ウナックトウキョウ（1977年）



「消滅した時間」朝日新聞社（1975年）
「生きる歓び」毎日新聞社（1972年）
「映像の現代1 王国」中央公論社（1971年）
「奈良原一高 ポートフォリオ ヨーロッパ」筑摩書房（1971年）
「ジャパネスク」毎日新聞社（1970年）
「スペイン 偉大なる午後」求龍堂（1969年）
「八木一夫作品集」求龍堂（1969年）
「ヨーロッパ・静止した時間」鹿島研究所出版会（1967年）

パブリックコレクション

東京国立近代美術館（東京）
国立国際美術館（大阪）
東京都写真美術館（東京）
横浜美術館（神奈川）
川崎市市民ミュージアム（神奈川）
山口県立美術館（山口）
島根県立美術館（松江）
兵庫県立近代美術館（神戸）
神戸ファッション美術館（兵庫）
清里フォトアートミュージアム（山梨）
日本大学（東京）
東京工芸大学写大ギャラリー（東京）
多摩美術大学美術館（東京）
九州産業大学（福岡）
堺市役所（大阪）
吳市立美術館（広島）
高浜市やきものの里かわら美術館（愛知）
東川町（北海道）
ニューヨーク近代美術館（ニューヨーク）
ボストン美術館（マサチューセッツ アメリカ）
ヒューストン美術館（テキサス アメリカ）
ジョージ・イーストマン・ハウス国際写真美術館（ロチェスター アメリカ）
プリン斯顿大学美術館（ニュージャージー アメリカ）
アリゾナ大学センター・フォー・クリエイティブ・フォトグラフィー（ツーソン アメリカ）
パリ国立図書館（パリ）
ヨーロッパ写真美術館（パリ）
ハンブルク工芸装飾美術館（ハンブルク ドイツ）
台北市美術館（台北 台湾）